

西郷参議殿
井上参議殿
山内参議殿
榎方参議殿
金丸参議殿
川村参議殿
福家参議殿
徳小参議殿

巡
第十八番

第八号

廣島参議殿
山口参議殿
嶋本参議殿
上甲 住持殿
山内参議殿

明神宗七月十日
元老院議官 榎村西直

太政大臣三條實美殿

廣島縣管内巡察筆記沿革

廣島縣管内、安藝備後兩國、
其先安藝國全周、備後國内、
御調師甲奴世羅三貂奴可三上三
次、東蘇八郎八廣島藩、管轄ニ
テ、備後國內、深津沼隈、芦田品治、安那
神石、六郎八福山藩、及中津藩、管
轄ト幕領トナリ、レテ中津領ト旧幕
領ト、明治元年、倉敷縣、所轄トナ
レ、後廣島置縣、際、廣島及福

山藩ハ各々ノ縣ヲナリ同四年福山
縣ト倉敷縣トヲ合シテ河津縣ヲ
置カレ同五年ヲ廢シテ又田縣ヲ置カ
レ八年岡山縣ト合シ又九年ニ岡山
縣ノ備後六郡ヲ割テ廣島ト合係
シ兩國全ク一管轄ト歸ス
兩國トモニ北ハ山陰ト背ヲ接シ山陰
綿聯村落其間ノ点在シ沙鉄草
綿麻等ノ産物多ク南ハ南海
ニ面シ港灣相連リ嶋嶼星列シ海

産物ノ利ヲ亦多ク地勢民業粗
趣ラ日ヲ然レハ旧福山藩領ノ人ハ
自ラ活潑ノ氣象アリ旧廣島藩
領ノ人ハ氣力乏シト云フコトハ世間論
者ノ説ナレバ氣力乏シキモノハ廣島
区内ノ人ニシテ即大瀧城下游急
ノ遺風ナリ乎

去八明治十年西南暴動ノ際士族ノ
方向ヲ誤ラシテテモ縣廳ノ諭旨ヲ
奉シ淺野守次寺尾小八郎等周旋
シテ之ヲ團結セシメテ授産ノ基ヲ
開カントス今ハ之ヲ同進社ト云其後
政變論起ルルモ士族加盟セル者
少キハ蓋此團結アルニ由ル昨年
天改進党藤田高之曾テ河野敏邦ハ
後輩スル也
田將元凱来リ煽動スレバ在テ其

後嶋田三郎来り演説不したる應や
ト云此社、但令長四十二人、但令長
百五十人アリ其、但令長四十二人
士族中ヨリノ公撰ナリ、曾テ士族授
産ノ事ハ此社ニ任セラレタシト觀ヒ
出許可ヲ得タシ其、但令請願規則
癸卯ニテ差支リ生シ依テ田家光
清野中津野守夫上田讓翁ヲ総
代人トシ、総社員七百餘人ヨリ
委任^状ヲ授シ何事モ同人等ヨリ

願ヒ同フコトナリ又政黨ノ起リヨリ
平民間ニ此社ニ加入ヲ願フ者アレバ
前段ノ通り士族授産ノ事ヲ觀
テルコトニテ平民ノ入社ハ許シ難
シ依テ本年二月ヨリ授産ノ方ハ
社名ヲ去リ第一授産可ク第二授
産可トシ本社ハ尤ノ誓約書ヲ造
リ追々平民ヲ加入スルコトヲ許サントス
ト云

誓約主意書

恭しり惟んし我皇國ノ國体リル
ヤ
天祖 天孫極ヲ立テ統リ垂シ
統レシヨリ歴世ノ
室祚 聖子 神孫綿綿傳
承君主常ニ我國体ノ精神トナ
リ之カ臣民トシ者モ其分風ニ
上カニ是ナリテ愛ヌス是故ニ
今之所治ノ生靈ハ即
天祖爰撫スル所ノ裔孫ニシテ

其分ハ君臣其情ハ父子四海一
家ノ尊方像弟世ニ直リテ華
ニラス是我國体ノ尊且嚴ニシテ
世界各國ニ比類ナキ所以ナリ其
政体ノ妙ハ時ニ損益スル所
ナキコト能ハス故ニ
今上御身位ノ初ニ五事ヲ天
地神祇ニ誓ヒヤラシヨ守テ出ル
所ノ
鳳詔トシテ

祖訓ヲ尊崇シ斯民ヲ愛撫
シ結フノ

敵虜ニ執サレハナシ嗚呼誰
カ總起セサラシヤ苟モ皇國ノ
臣民リハ者ハ協同一致

皇猷ヲ習考賛シ外ハ國權ヲ
擴張シ以テ臣民ノ存多ク是サ
スレハアル可カラス熟今日ノ狀

勢ヲ察スルニ浮薄輕躁薄ク
夙ヲ成シ德義廣範治ト地

ヲ掃ヒ建國ノ基ヲ布臣俗ノ
成ル所ヲ知ヤス狂走顛奔
ヲ覺ト呼ヒ至義ト呼ヒ空
理見シ談シテ實業ヲ顧ミ
不將ト我國固有ノ美ヲ失ハ
シリス豈莫心セザルハヤ故
コ余輩ハ今日ノ夙衛ニ禮儀
ヤス屹然覺沁ノ外ニ立チ大
義ノ在ル所ヲ明クシ若公ノ
存スル所ヲ正シクシ勤儉以テ

産物ヲ磨キ淬精以テ節義
ヲ励シ空理ヲ去テ実業ヲ
就テ奮テ政体ノ進歩ヲ冀ケ
進テ國家ノ富強ヲ謀リ而シテ
皇室ヲ天壤無窮ニ奉戴
シ同体ニ係リ斯年ニ保持シ
世界各國ニ對シテ德義ノ
標準トナラシムル是余輩
カたノ修項ヲ掲ケテ以テ同
志者ト誓ヒシレバ所以也

浅野 忠
浅野道典
上田謙翁
明治十六年三月

誓約修項

一 皇國ノ臣民ソル者ハ大義
ヲ明カシ是非分ヲ正シテ大ニ
國力ノ美ヲ發揚スル事
一 皇國ノ臣民ソル者ハ我國體
ノ世界萬國ニ比類ナキノ原

ヲ詳しし而して其政体ト
混同するハヤラサシノ由ラ明ニス
ハキ

一 皇國ノ臣民タル者各自
耻シテ庶キ第義ヲ励シ而
シテ其分限ヲ守ル事

元治二年よりし士族杉浦武雄日比
岡十人者先般稱職し此日進社
中よりアリテ時々岡山縣諸會
員ノ中ト通信し或ハ自ラ云
日進社ハ頑固愛ナル故之ヲ
開カシ爲メ尽力カスト此兩人ハ密
ニ縣廳ヨリ月給ヲ請ケテ国事
探偵ヲ爲ソ日進社ハ入り以テ
一ニシテ警部ヲ稱シタリシハ表
面ノミト云

廣島島下し於て始て政堂ヲ組
織せしハ明治十二年比ニテ愛媛
縣士族本林島島三十一者奉
磨立志集ト号シ日者四千
四百餘名ヲ集ム同年高知縣
士族山田十畝亦來テ廣島立
志集ニテ設テ三百餘名ノ加入ヲ
得たり何レモ民於自由ヲ擴
張スルヲ以テ目的トシ先所ニ應

説會より同々一時大に異なり
煇却せしを彼等カ言行一致
セサルヨリ數月ヲ経テ衰頽シ
十三年春に至り解散セリ
ルニ同年四月山田十郎ハ更ニ興
國会トテ一社ヲ組織シ社
員三千餘名アリ東西奔走ニ同
盟ヲ勸カシ民衆ニ者ナシ數月ヲ
経スシテ其社亦解散ス翌十四年
幸知士族守下ヲ黨等公道會ト

稱し自由民権ノ政党ヲ組織シ加盟
スル者亦千名有之及ヒシモ碌々取
ルニ足ラザル無氣力者共ニシテ昨
十五年ニ到り解散シ守下ハ更ニ
平民黨ト爲シ助藤榮方等思川
修三秋山忠文等ト黨ヲ備立黨
改進党ヲ組織シ加盟スル者數カ
ラスヨリハ氣會後復ナリ此党モ
漸々衰へ日ニ隆名スル者多ク
現今ノ十年先ト云其他大坂古

憲自由政令ノ加リシ者ハ今幸名
ナリシカ後憲ハ本年三月解散シヨリ
ト云山田十畝ハ之原ノ旧家老
戸田十畝者ノ養子ト成リ今ハ戸
田十畝リ号ス三原トテ今日奉補
仁會ヲ設テ立憲自由党山科神
花等ト詩歌立憲等ノ遊藝
ヲ以テ席上演説ヲ為ス人負ハ十
先位アリト云

廣島士族第一授産所ハ廣島老万
五千円ヲ明治十三年七月ヨリ十八年六
月迄五ヶ年同振込置キ十八年七月
ヨリ向十ヶ年賦與利子トテ島總
ノ借リ受ケ廣島旧藩主淺野
家ヨリ所有ノ建物ヲ寄附シ之ヲ設
ケタル者ニシテ其業綿繅綿打
多挽機織ノ四業ニシテ授産師
ヲ雇ヒ専ラ婦女ノ工業ヲ授ルニモ

一、一略十四年より開業 縣願ニテ
 警備也ニ處旧藩主家老淺野
 忠清野道與上田護富淺野守
 末等より引受テ継続セリ
 願ニ且増強借金七千三百ノ十四
 年同七月ヨリ十八年六月ニテ
 三ヶ年間振置十八年七月ヨリ向
 五ヶ年賦年六分ノ利ヲ毎毎年
 五月限リ返納定メテ以テ許可シ
 得同年六月ヨリ同人等ノ引受

ケリ故ニ廣島士族ノ授産金ニ貸
 貸金約千七百ノ十四ト淺野家
 ヨリ委託金ニ爲メ同ト士族中ヨリ
 寄付金千五百九十金同トノ三種ナリ
 又田子ニ授産スル爲メ淺野家ヨ
 リノ委託金利子ヲ以テ印刷事業
 ニ興サシトス然レニ此ノ一授産金ハ
 侯者育ヲ帯ル故入ル所或ハ出ス
 所ヲ俟リカノ見込ヲ以テ同年
 十二月ニ廣島お徳大屋組組職

工場ヲ譲受ケ專ラ綴小倉ヲ織リ
廣島鐵道兵卒及ヒ存命止直
等ノ被服用ノ注文ヲ受ケテ織出
スヲ以テ漸利益ヲ得テ一授産
所ノ費ヲ償フ此兩授産所ヲ指
スル者モ實ハ同進社ノ士族ナシ民
之ヲ同進社授産所トスル由ハ同
進社ノ平民ヲ加入スルニ差支アル
ヲ以テ社名ヲ用ヒス前ニ記スル授
産ノ方ハ社名ヲ去ルト云フ即

千八百九十一年

旧廣島藩一代卒ハ士族ニ編入セ
ラルル者トシ凡當時調査ノ粗漏
ヨリ福ハ其俵ニテ平民ニ編入セ
シ旧小人ハ明治六年突也廣福平
氏籍ニ編入ノ所沙汰成リ且自然
世襲ノ姿ヲ成シタル者一福高ニ
テ年分リ一時ニ下賜セラシ一同無
福ノ平民トシ旧藩家老淺野數吉
淺野守夫カ家来モ士族ニ編入

セウんハキ者十ん之曰家旧要後者
取調粗漏ニテ士族ノ禄モ族モ得
ル能ハス平氏トシリ是ヲ三種族
ト云此三種族右ノ塵分ヲ不考トシ
追ハ不平申立ニ未終ニ授免有
トシテ無禄士族旧家老 兼元一代
卒其人負千七百四十六人ハ明治
十三年七月ヨリ無利莫二十九年
振四直向十ヶ年賦毎年五月限返
納定ヨリテ金七萬千四百弍拾

田田小人四千百三十二人ハ金十三
弍田金金弍拾弍千四百弍拾弍
金ヨリ以テ設立シテ工場器械
等莫皆換當トシテ出スツテニテ
家産ハ貸下ケラシマリ茲ニ於テ
安藝郡上瀬野村ニ置テ農高
務有リノ設置ノ水車仕掛ノ紡績
所ノ掛下リ機ト昨十五年六月ヨリ
了繼キ七月ヨリ試業セシハ月以後
ニ至リ用水ノ減スル為メニ機械運

轉ヤス拂借代金四百六十金内ハ彼
等五千八百六十人ノ禄代ノ族
代ハタルカ指當子四百金内思借
金ノ強ト五分ノ一ナルニ斯リ不完在
ノ工場ヲ引請ル其不事モ甚シト云
フヘシ抽水カヲ以テ運轉スル機械
場ヲ設ルニハ水源ヨリ赤原ニテノ
利害ト年申流水ノ増減トヲ審テ
目量ラザレ可ヤラス徑東田至ノ扶持米
ニシテ生計セルニ程強ハ何リカ知

ラレヤ工費ヲ管スル者高勢者ニシテ
ハ其ノ為ノニ俸給ヲ奉ラスル則是又
ハ機械ノ技術者アリテ此工場ヲ設
ケラレシナラシメ其則是技術者等ハ
何ノ故ニ斯ノ如キ水取ヲ特ニ此工場
ヲ建築ヤシヤ凡官ヨリ人民ノ對シ
其生活ノ為メテ憂慮ス工場ハ充分
ノ試験ヲ遂ケ充分ノ利益ヲ生
スルノ算アルモニ却サレハ何令人民
買フコトヲ懇願ス凡味シテ憂慮久

所カラカレハ言フニ及ハサレハ
達ノ官ノ取戻ノ御處分アリキ
ナラレ乎

廣島島下ノ經濟ハ山陰道ノ通ル
ノ道路水理ヲ開キ南海ニ面スル
港灣ヲ善良ニスルノ最第一ノ事
トス高田郡三田村ニ鬼白橋嶋並ニ
ト云者アリ明治十四年安藝國高宮
郡將首家村ヲ高田郡三田村ノ間
ニケテノ嶮路ヲ改良シ十五年ニ至リ
全ク落成ス同年更ニ廣島ヨリ起
リ高田郡三田節ヲ經テ三次延テ

達スル車道開^敷ヲ發起シ三次郡
 上川立村署ニ原寸作具外沼道
 有志者ニ叙キ其ノ任カシ討画己ニ成リ
 本年二月ヨリ工事ニ着手シ踏線已
 達スト開キ甚宜地ヲ視ルニ幅員式
 間長サ十七里峯坂ヲ平坦ニシ迂路
 ノ直線ニス十七里間坂路ハ總ニ
 一ニケル今猶之ヲ切下ル工事申
 ナリ甚直線ニ當ハ必ハ田畠ト墾カ
 必ス之ヲ申覆スサレ凡人民ハ競テ其

田畠ヲ寧附ヤリ道ニ之ヲ望ムハ一直線
 敷村ヲ覆キ一近ノ隈墨ヲ以テ画ヤル
 如キ下リ巡視ノ前日ハ大雨降リ乱
 ス如ク野道ノ泥土車輪ニ粘シテ少
 シモ進ムス歩シテ行リ泥深キ一尺
 餘立日午前ヨリ漸ク晴ラ催スト
 居テ新道尚未乾處多シ工事ニ
 従事スル村民ハ鼓ヲ打テ旗ヲ建
 テ土石ヲ運搬ス先般人民ヨリ叙
 令ノ巡視ヲ乞ヒ時ハ鐘鼓ヲ打テ

雖し迎へ村に陽を分ち旗を建て前
後を擁して行り歡声數里に亘ル
ト云止宿舎の巡視にハ程ノ事ハ
アラヤリシカ憐ハ路ノ左右に建テ
皆紅白色ヲ用ヒ村名ヲ記セリ又
田を耕ス者モ家々養蠶野スル者モ業
ヲ措テ走リ来リ雨リモ泥ヲモ厭
ハス路傍に群一集し見ルアリ又跡ヲ
追ヒ来ル者百人或百人続々斷ハス
初メ新道ヲ變置ノ地過スルヲ喜フ

ト乃チ一村或ハ半村毎に止り殿前
して去らしム此路程十七里間皆村に自
カウ以テ開クモノニシテ敢テ官を地方
税等ノ補助ヲ仰カスト云工事未ク
皆済ニ到ラスレモ十七里間幅員
並同ノ路敷ハ全ク開ケ路功近キ
アルヘシ皆橋崎圭之カ音唱ニテ村
々有志協力諸人ヲ勸誘セシテ由ル
ト云其他依伯郡草津村ハ白糸
甚大工門中同郡二十日市以東ノ

国道井口村小正斐峰古御村ノ内
長崎峠大野村鑛出シ峠日村四十
ハ坂秋波村ノ内字馬試シ峠木野村字
苦ノ坂等ノ峻坂ヲ改メテ廣島以西
大竹村マテ九里余ヲ平坦ノ大道ト
爲メテ尽力シ如可郡久代村ノ高坂
新方守ノ中野郡東城町ヨリ深津郡
福山ノ達ノ道ヲ改修東城川通
船着葉等ノ尽力シ三次郡上里村
士族有田実カ雲伯往還三次郡

上里村実ノ峽ノ急道ヲ改良スルニ尽力
奥田郡惣志村森田共市カ惣志村
ヨリ志海村ニ達スル道ヲ改良シ加茂
郡御村有田久村厚村今井兼綱溝
口村古川俊夫等カ同郡溝口村ヨリ
多田郡田万里ニ直ニ堀坂里道ヲ
村厚村梳毛峠ヲ堀下ルニ尽力セシ
等ノ事アリ猶猶崎至ニカ此度
ノ改路一尋ヲ同テ續シ舊テ改
路ヲ企ツル者多ク又三次川其他

通船工事ヲ企ル者多シト云々
州人ニ氣力之シト云フ可ヤ
右ノ如ク改路通船ノ事ニ奮起力
スル者ハ皆局中ノ人ニシテ
廣島港中
ニハ未ダ一人アルヲ聞カス
廣島港中
ニ未ダ後路ニ着手スルヲ見
サハハ是
レ世ニ云フ藝人氣力之シトハ
全ク
廣島区内ノ人ニ限ルナラカ

学校ハ師範学校中学校等ハ文部
省ノ直轄英語学校廃案ノ家屋ヲ
引請ケルハ故舊造願ハ壯大ナリトモ
毛生徒ハ寡ナルカト思ハル且定期
試験後トテ教授ヲ見ハ能ハス總ニ
師範学校附属ノ中学校ヲ見ル教
授方面ト云難シ都テハ学校ノ教授
方面山以西ハ漸次ニ上國ト替ハルヲ
見ル廣島縣管内ニ人テハ一層

学事ノ振リサレノ意ニ於テ言ノ建
 甚不都合番城ニ調ハス生徒教
 之望シ方尺程ノ板ノ字ヲ習フ教員
 立ナクテ難ク持テ教ユ何ノ故ヤト問ハ
 ハ区長答テ云リ近頃民心学事ニ
 向シ生徒俄ニ増ス故ナリト然レモ高卓
 橋子ハ甚ヤク方尺ノ習字板ハ頗ル古
 ビシク見ル又開ク生徒ノ増加セ
 カル前ハ此僅ハクハ高卓橋子ニ
 テ事立シリヤト答テ云フ入費ニ堪ヘス

民心学事ヲ出スル好メスト民心学事
 ニ向ヒ民心学事ヲ出スル好メス書籍
 ナリシテ教ノ器械ナリシテ学ヘヨトハ
 今セ行ハシ難キ親ナルヘシ都テ廣
 島島人ノ事ヲ問ハハ皆云ク我疾ク
 之ヲ知レ我能ク其ヲ善ク知ルト何
 故行レサルヤト問ハハ曰ク資金ヲ得
 ルニ道ナキナリト茲ニ有テ字坊主能美
 園乗ト云フ者アリ明治五年ヨリ中場
 本町ニ私立ヤ学校ヲ設ケ用成舎ト

男ス教員五人生徒三百五十五人園
栗カ専婦モ亦助教リリ外ニ漢学
生徒七十一人アリ其校舎ハ古屋ヲ
用ユクモ校中教則必ス文部省
ノ成規ニ由ル入學ヲ乞フ見テハ費
賤ヲ論ヤス必ス其父兄ヲシテ伴ヒ来
ラシム則父兄ニ約シテ云ク我教則嚴
ナリハ見ノ知識ハ厚ニ徹ナリ可ラス
又其見ヲ識メテ云ク子弟タル者父
兄ニ背ク可ナラス父兄モ

天皇陛下ノ臣民ナリ謹テ

朝廷ノ法令ヲ守リ

天皇陛下ノ

聖旨ニ背リ勿レト

此約束教訓ヲ了テ後、入學ヲ許ス
按書料貧富ニ由リ等差アリトモ一
人一ヶ月十文ヲ以テ最下等トス然レ
生徒ニ接スル怒利ナリ故ニ鎮撫
廳裁判所等ノ官費ノ子身ヲ始メ
一区内ノ人民モ已ニ公立ノ學ノ費ヲ出シ
タリモ児童ヲシテ公立ノ學校ニ就テ

学ハシメシム此校ニ就学セシム敢テ二
重ニ賈買ヲ出スラ各ニサレナリ校ニ臨
ムニ精ニ階成血ノ体ヲ見ル是ヲ以テ之
ヲ考レハ民心ヲ学賣ヲ出スラ好ニサレノ
正長説ハ何等ノ事ヲルヲ知ラス

廣島縣管内ニ入テ路上官山ヲ同ハ
ハ村夫指シ答テ曰ク阿ノ禿山ハ官山也
那ノ樹木疎ナル處官林ナリト縣官亦
曰ク人民ニ向テ禿山ハ官山ニカリテ官ニ
ヲ説クニ却テ禿山ハ官山ニカリテ官ニ
リ防砂ノ工事届カサルヲ苦ム管下樹
木ヲ盜伐スル者多シ其盜伐スルヤ官
林ヲ尤多シトスト散島ノ如キハ先年
ハ深樹鬱蒼トシテ神仙ノ山ナルヲ實

へしを今ハ盗伐ノ為ニ樹林同隙アリテ
稍、風致ヲ損スルヲ覺エ

廣島縣管内ニ入りしヨリ即役所ヨリ
人民共有ノ凶年豫備儲蓄米アリト
具申スルモノシ凶荒ノ備穀ハ先年
ノ備荒儲蓄法ノ為ニ行ハレス従前
社倉義倉其他良法アリシモ多クハ
破レタルニ此處ニ來テ猶其備ヘテハ
最歡フヘキト鬼ト其米穀ノ所有
ヲ問ハハ或ハ金ニテ儲ルト云或ハ貸
付アリト云甚シキハ永代貸ニセシナト云

終に影ヲ撮ル如ク感覺ヲ生ス夫レ
凶荒豫備穀ノ如キハ無ク有ト記シ
金ヲ米ト記スル如キ一アルハ官モ
之ヲ有トシ米トシ民亦有トシ米トシ
一旦事アル時臨シ之ヲ待シテ他ニ
備ラズ却テ大ナル害ヲナスハ
豈先陳ノ事ナラスヤ若シ此ルハ
無ハ無トスルノ勝レルモ若キナリ

廣島縣管内近來海賊多キヲ以テ
捕縛費トシテ内務省ヨリ金千両ヲ
乞請ケ人民ヨリモ三千両出金シ水
上警察ヲ設ケ數人ノ賦ヲ縛セリ
然レモ此水上警察ハ人負モ甚僅
可必竟警察費金乏シテ故ニ充分
ノ事ニ到ラズト云然レモ此處ノ警察部ハ
他官ヲ兼タル者多ク其兼タル者ハ
専ラ其業務ニ従事スト云又縣官

ノ言ニ云此縣ハ往來山家ト云無籍
ノ民アリテ其住所定ラス或ハ筆墨^シヲ
賣リ運リ塵^シテ人^ノ買ハシメ或ハ詐
欺^シ金^ノ銭^ヲ街^ノ取^ル等^ノ事^ヲ為^シ甚
良民^ノ害^トナシカ^レ比^ニ警^察吏^之着
手^スハ忽^チ去^テ他^ニ移^リ凡^ソ山口縣
鳴根縣鳥取縣地^ノ連^リ移^轉シテ定
處^ナリ^ト四^ノ處^ノ警^察吏^ノ協^議シテ年^々捕^セル
レ^ハ得^ハヤラス其人^ノ負^甚多^クシテ容易
ニ^テ撤^算シ^難シ^ト依^テ令^テ四^ノ縣^カラ^シ合^セテ^年

捕^ルル^モ其^ノ處^ニ置^クテ^苦シ^ム政^村ヨ^リ入^籍
費^金下^賜ナ^ケレ^バ義^友ハ^付未^ク着^手セ
スト云

巡察使榎村正直開口

隆吉申報書

右供高覽候也

十六年七月三十日

内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

西郷参議殿

井上参議殿

山田参議殿

松方参議殿

十六年七月三十日

内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

西郷参議殿

井上参議殿

山田参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福島参議殿

佐々木参議殿

大正六年七月

二十日

山口縣管内

巡警署

事務

巡警署事務

巡警署事務

第九号

山口縣管内巡警署事務
今三十一日
島根縣管内引移申候
山口縣内之
情况可開申候旨之
雖々至急ヲ
要スル儀ニテ
無之旨後日
讓リ此度
唯島根縣内引移之儀
ノ上
申候也

巡察使

明治十六年七月三日
元老院議官植村正直
太政大臣三條實美殿